

# 「山古志復興新ビジョン研究会」

## 第2回生活再生分科会 議事概要

1.日 時 平成17年2月15日(火) 10:00～12:00

2.場 所 ニューオータニ長岡 桂の間

### 3.議事概要

(1) 分科会座長挨拶(省略)

長岡造形大学教授 平井邦彦

(2) 出席者紹介と配布資料の確認(省略)

(3) 第1回の分科会の報告

第1回分科会の主な意見と対応(事務局より資料-3説明)

他の分科会の主な意見(事務局より別紙説明)

(4) 復興新ビジョン中間報告(素案)の検討

住民アンケート調査結果(速報)(事務局より資料-4説明)(省略)

山古志復興新ビジョン(中間報告骨子案)(事務局より資料-5説明)

#### 質疑応答

(上村委員)

安全判定委員会については、小千谷や栃尾等にも全地域避難している場所がある。山古志周辺地域を含めて判定する委員会としたほうが良い。

(伊藤委員)

復興ビジョンの書き方として、“「旧に復す」のではなく”が重要なポイントであり、「旧に復す」部分と、それ以降の創造的な部分とは分けた方が良い。創造的な部分は、コストがかかるとしても社会実験、新しい事業としての意義を盛り込む必要がある。都市部の人にも住んでみたいと思う人が増え、バランスのある国土計画につながるようなものにしたい。

(平井座長)

中山間地にもインキュベータすべきものがあるということを示せばよいのではないか。ベンチャー集まれという発想が良いだろう。

(伊藤委員)

山古志にもビジネスチャンスはあるはずなので、そういう人も参加できるような事業としたい。

(澤田委員)

外から来る人がリーダーになる可能性もある。集落単位による再建をあまり強調すると、外から来る人たちが入り込みにくくなるようなイメージとなってしまうのではないか。

(深澤委員)

山古志は一丸となっている感じがするが、住宅再建については、個別に条件や考えが違うのではないか。住宅再建は基本的には自助努力になると思うが、現実には銀行の融資や帰村までのタイムラグなどが今後の意志決定の大きな要素になると考えられる。

(事務局)

ビジョンで出したアイデアが具現化することにより、各機関も動くかも知れない。いずれにする地域自らが動くことが大切だと考えている。

(深澤委員)

帰れる人は帰って何ができるかを考え行動してもらおう。戻ることが先決である。

(澤田委員)

山古志は特殊な村落形態があるので、ただ建てるだけでは問題が残るだろう。復興基金はメニューに対して支援する方式となったので、これに乗せていくのが良いのではないか。また観光産業の振興などにより地価が上がり、これを担保として金を借りやすくし、住宅再建の手法の一つとすることも考えられる。

(平井座長)

東京ディズニーランドでは将来的に住宅地への用途変更もあり得ることを示して銀行から融資が受けられたと聞いている。

・防災学習のルートについて

(伊藤委員)

- ・京都大学の防災研が子供向けの防災読本を作っている。土砂崩れの跡地などを残し、地震の脅威や防災の必要性を後世に伝えることが重要であり、われわれの責務でもあると思う。
- ・コミュニティの良さをどう生かすかが課題である。母村と子村との微妙なつながりが帰村の基礎になっていると思われるので、もっと把握しておく必要があるのではないか。
- ・子供たちのメンタル面のケアも重要なテーマである。

(上村委員)

3 mの豪雪が安定的に降る地域に人が住んでいるのは世界的に珍しい。雪室づくりなど、雪を生かした地域づくりも考えてはどうか。

( 5 ) . 今後のスケジュールについて

今後のスケジュールについて(事務局より説明)

閉会

(文責：事務局山口)